

職員による自己評価

A環境面

- ・スペースに関しては問題ないが、空間の区切りができていない
- ・児童指導員配置は問題ないが、利用児童の障害特性として人手が足りないと感じる日がある

B児童への支援内容

- ・3カ月に一度保護者・児童用へモニタリングを記載してある通信物を配布。面談時には計画書に対するモニタリングを別途作成している。
- ・活動に対し行事計画を立て、個別に応じた取り組み方を検討し、実践している。
- ・児童の状態に合わせ、集団活動から個別活動に切り替え、支援を行っている。
- ・支援面談前にモニタリングを作成し、作成者以外が確認&修正を行い、客観的な視点で判断をしている。

C関係機関との連携

計画書・モニタリングを関係者各位へ提供できる形をとっている。提供方法は各保護者と相談し決定している。

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・コロナ禍であったため家族会などは開催できていない
- ・毎月通信発行している

E非常対応

- ・年2回実施して、連絡帳や通信で親御さんへも実施状況をお伝えしている。
- ・マニュアル作成はしているが、ご家族への周知ができていない

保護者による評価

A環境面

- ・活動に十分な広さがある。

B児童への支援内容

- ・コロナ禍により面談できない場合もあり、説明不足を感じることもある

C事業所からの情報発信

- ・SNSで毎日の活動が確認できる
- ・家族会の実施希望

D非常対応

- ・非常災害対策、マニュアルがわからない

事業所内での分析

【共通点】

- ・日々の支援には満足いただいている
- ・コロナ禍による面談回数の減少による説明不足
- ・非常災害対策マニュアルの未配布
- ・通信やSNSでの活動報告

【相違点】

- ・コロナ禍による面談回数の減少による説明不足
- ・

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・日々子供達が楽しみながら経験を増やせるようなレクリエーションや行事を実施している。
- ・個々の障害特性に応じた支援内容
- ・毎日 SNS での活動報告
- ・3ヶ月に1回評価を行なって親御様へ報告を行なっている

事業所の改善点

- ・家族会の実施
- ・防災マニュアルや避難訓練状況の周知
- ・面談回数を戻して、より細かく報告や支援内容の説明を行う

事業所の改善への取り組み

コロナ禍で面談をできない時期があったため、来年度は回数を通常に戻して、細かく報告、説明を行なっていく。
非常災害マニュアルをご家族用として修正して配布する

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

コロナ禍で数年活動のしにくさやご家族とのコミュニケーションが減ってしまった。
こういった機会にご意見をいただけることで改善できるため、早急に進めていく。

事業所名 パレットハウス児童デイサービス和田町
担当者 石井 翔太